



滋賀県議会議員

た な か ま つ た ろ う

田中松太郎

プロフィール ■1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■甲賀市甲賀町 在住 ■環境・農水常任委員会、行財政・働き方改革特別委員会 委員長

1期4年の節目を迎え、今期最後の議会を無事終えることが出来ました。今定例会議の最終日には行財政働き方改革特別委員会委員長として本会議場において委員長報告を行いました。4年間で実現できたこともありますが、まだまだ課題は山積しております。



田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

2月定例会議 一般質問

SDGsについて

SDGsが掲げる目標の一つに「貧困をなくそう」があります。国内でも社会問題化しつつある子どもの貧困は、その家庭の所得が国の平均所得の半分以下になる「相対的貧困」で、ひとり親や親が非正規雇用の家庭が多いようです。統計によると子どもの7人に1人が貧困状態にあるといわれています。

1日の食事を給食に頼る子どもを助けようと平成24年に近藤博子さん（東京大田区）が始めた子ども食堂は、今や社会インフラになりつつあります。県では平成28年度から「みんなで淡海子ども食堂をつくらう」応援事業を実施し3年間の助成を行った結果、県内各地に115の子ども食堂が開設され、全国的に見ても滋賀県の取り組みはかなり進んでいると思います（応援事業は30年度で終了）。

平成29年度からは、子ども食堂の継続的な運営のバックアップ等をさらに進めるため、滋賀県社会福祉協議会による子どもの笑顔はぐくみプロジェクトがスタートしました。それぞれができる形で、「子どもの笑顔スポンサー」として子ども食堂の応援団になっただけという取り組みです。子ども食堂はそこに通う子どもたちだけではなく、運営に関わる方々や地域の方との交流の場としても機能しています。しかし、場所が恒常的に確保できない、資金や物資が足りないなど解決しなければならぬ問題もまだまだあります。

SDGsでは、2030年までに貧困をなくすことをゴールの1つにしていますが、子ども食堂は貧困をなくす根本的解決には繋がっていません。しかし、県内での子ども食堂の急激な普及から子ども食堂に求められる役割がより多岐にわたることは明らかです。子ども食堂への取り組みをさらに加速し、県民や事業者との連携による子どもの笑顔はぐくみプロジェクトへの取り組みが確実に機能すれば、国からもSDGsの取り組みとして十分評価される内容になるのではと期待しています。県民一人一人が自分の事としてSDGsの視点に基づき行動できるようにすることを期待しつつ、以下の質問を行いました。

※SDGsについては前回(1月)を参照ください。

Q 全国の子どもの食堂の開設状況と比較して、本県の開設状況について。

A 健康医療福祉部長 全国で286か所、滋賀県は95か所、小学校区数に対する子どもの食堂の開設の割合では全国平均11・5%に対し、滋賀県は42・6%、沖縄県に次いで全国第2位です（平成30年3月時点）。県内の子ども食堂の数は115か所、小学校区数に対する割合は51・6%、2小学校区に1つ以上の子ども食堂が開設されています（平成31年2月現在）。

Q 子ども食堂の運営者の状況について。

A 健康医療福祉部長 ボランティアグループ等の任意団体やまちづくり協議会、自治会などの地域団体が全体の約7割、NPO法人や社会福祉法人での実施も増えています（県社会福祉協議会調べ）。また、地域の民生委員や学生ボランティア、保護者や地域の高齢者など、様々な方がスタッフとして関わっています。

Q 子ども食堂における滋賀県の特徴的な成果について。

A 健康医療福祉部長 地域の子どもなら誰でも参加でき、安心して過ごせる居場所づくりが進められています。子どもを真ん中において、高齢者や保護者も含め、地域の様々な人がつながる居場所になっています。子どもたちの笑顔はぐくみプロジェクトにより多様な主体が参画し、支援の輪を広げ、継続的に実施できる仕組みづくりを行っていることが本県の特徴だと考えます。

Q 子ども食堂が抱える主な課題について。

A 健康医療福祉部長 ボランティアグループ等によって運営されているところも多く、食材の安定的な供給や人材スタッフ、場所の確保など、継続的な運営に課題があります。

ります。継続的に安定した運営を支援するための仕組みづくりとして、県社会福祉協議会とともに「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」を公私協働で推進していきます。

Q 子ども食堂つながりネットワークSHIGA（平成30年8月設立は、子ども食堂の安全・安心を高めるための行事用保険や、運営の質を高める研修会、子ども食堂相互の交流会などを行なっている。子ども食堂つながりネットワークSHIGAに加盟している子ども食堂が、公共施設を利用する際、減免や優先予約などに関して各市町施設への協力依頼を県として要請するなどの対応がとれないものか。

A 健康医療福祉部長 子ども食堂を公共施設で開催している17市町のうち14市町で減免等の取扱いになっていますが、一部の市町では減免になっていません。予約については、現状市町の取扱いについて把握できていません。市町と情報共有するなどして、子ども食堂へどのような対応が可能なのか考えていきます。

Q 現在の子ども食堂の笑顔はぐくみプロジェクトの状況について。

A 健康医療福祉部長 スポンサーの登録数は、事業所が160か所、個人40人、合計200名です（平成31年2月21日現在）。支援の例として、寄附や商品券、お米の提供、店頭への食材や場所の提供やボランティアでの協力などがあります。

Q 子ども食堂の数に対し、事業所や人、モノやお金の応援が全く追いついていないように思うが、子どもの笑顔はぐくみプロジェクトの今後の取り組みはどうか。

A 健康医療福祉部長 包括連携協定を締結している企業をはじめ、様々な団体に様々な機会をとらえて積極的に働きかけていく他、スポンサー登録している企業の取り組みを広く告知するとともに、今後さらに効果的な取り組みができないか検討していきます。

Q 昨年セブーンイレブン・ジャパンが岡山県および県社会協議福祉会と協定を結び、店舗の改装や閉店時に在庫商品を生生活困世帯や子ども食堂などに寄贈された。本県でも包括的連携協定を結んでいるが、店舗改装時、閉店時における在庫商品による子ども食堂への支援は得られないか。

健康医療福祉部長 2月1日セブーンイレブン・ジャパン、県社会福祉協議会、滋賀県の3者で商品寄贈の協定を締結し、2月22日に商品の寄贈を受けました。今後も店舗の改装や閉店時にあわせ、県内の子ども食堂などで活用できると考えます。

Q 3月よりファミリーマートが全国約2000店舗で「ファミマ子ども食堂」を始めるとのこと、大いに活用が期待できるが、これまでの県内の子ども食堂のあり方とは一線を画す気もする。コンビニ各社の方針と県における子どもを真ん中においた地域づくりを進める子ども食堂のモデルのそれぞれの長所を最大限に活かした滋賀独自の連携モデルを検討してみてもどうか。

A 健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 2月1日セブーンイレブン・ジャパン、県社会福祉協議会、滋賀県の3者で商品寄贈の協定を締結し、2月22日に商品の寄贈を受けました。今後も店舗の改装や閉店時にあわせ、県内の子ども食堂などで活用できると考えます。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

健康医療福祉部長 地域の子どもの人たちが関わっているという特徴があり、コンビニには、馴染みがあり24時間オープンしている、常時スタッフが確保できるというような特徴があります。それぞれを踏まえながら、県内のコンビニ等で子ども食堂が開催される際には、地域の子どもの食堂と連携できるよう、県が主体的に関わっていきたくと考えます。現在、ファミリーマートにも、地域の取り組みとの連携について、働きかけをしています。

- 甲賀市内の子ども食堂一覧
- 「夢の学習」料理教室 水口（特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習）
 - かしわざい「わいわい食堂」（柏木地区地域福祉協議会）
 - 子ども食堂「てるてるぼうず」（てるてるぼうず）
 - たんぽぽ食堂（伴谷たんぽぽの会）
 - あやの子ども食堂（綾野自治振興会（綾野学区まちづくり協議会））
 - アモーレ子ども食堂（アモーレ子ども食堂）
 - 「夢の学習」料理教室 信楽（特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習）
 - 「夢の学習」料理教室 甲南（特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習）
 - 宇川みんなのはなまる食堂（宇川みんなのはなまる食堂）
 - smile door（smile door）
 - ふか輪っ子（ふか輪っ子）
 - スマイル甲賀 大原っ子（大原自治振興会）
 - 「夢の学習」料理教室 土山（特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習）
 - 「夢の学習」料理教室 甲賀（特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習）
 - いりどり食堂（いりどり食堂）
 - こども食堂サポテン（こども食堂サポテン）
 - みんなの食堂 ひとやすみひとやすみ（みんなの食堂 ひとやすみひとやすみ）

子どもの笑顔はぐくみプロジェクト

本プロジェクトは、各プロジェクトの趣旨に賛同し、応援していただく方を「子どもの笑顔のスポンサー」と呼んでいます。支援の内容は、それぞれのできること何でもOKです！スポンサーは、企業・事業所、団体、個人など誰でもなれることができます。随時募集しています。

滋賀県社会福祉協議会

子どもの笑顔はぐくみプロジェクト 検索

- プロジェクトの目指すところ
- ① 子どもを真ん中においた地域づくり
 - ② 遊べる・学べる淡海子ども食堂の安定的・継続的な運営をサポート
 - ③ 地産地消で食育・子どもの健康づくり
 - ④ 虐待から子どもを守る
 - ⑤ 児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり

子どもの笑顔はぐくみプロジェクト

滋賀県内100ヶ所以上にひろがる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の継続的な運営のバックアップなど、子どもを真ん中においた地域づくりをさらにすすめるための応援団をつくるプロジェクトです。